

五戸総合病院での研修を終えて

大阪市立大学医学部附属病院
2年次研修医 八田康佑

7月の一ヶ月間、青森県の五戸総合病院で地域医療研修をさせていただきました。

私は外科をローテートさせて頂いたのですが、まず第一に感じた印象としては、都市部の病院と、受診する患者も診察する医師も全く違うといったことでした。

外来では犬に噛まれた人や、蜂に刺された人といった地域ならではの傷病患者も診察し、手術前後で必要であれば内視鏡検査を自ら行い、手術では消化器系疾患はもちろんのこと、甲状腺腫瘍や、乳癌、粉瘤摘出など、本当にバリエーションに富んだ治療を行っていました。その診療場は去年、今年と、都市部の急性期病院でしか研修してこなかった自分としては、とても斬新で衝撃の連続でした。中でも、やはり強く感じた感想としては、医師として求められる人材が地域と都市部では全く違うということでした。専門性に特化した病院がいくつもある都市部では、なんでもできる医者よりどちらかといえば、サブスペシャリティに特化した人材が求められる傾向にあるが、地域の病院では、全診療科に人を配置できるわけではないので、一人一人の医師が出来る限り幅広く患者を診れる態勢が求められていました。出来る限り地域で治療が完結出来るように多種多様な、病気に悩む人を精一杯治療しようとする先生方はとても熱意があり、かっこよく、ただ昔、漠然と抱いていた、自分の中の困っている人を助ける医師像ととても似ている気がしました。これから自分がどのような職場で働き、どのような医師になるか、今の自分には全く想像もつきませんが、この五戸総合病院で経験した一ヶ月間の地域医療研修はきっと、これから何年、何十年とある自分の医者人生からみてとても貴重な時間であったと確信しています。最後に、迷惑ばかりかけてしまっていた、まだまだ未熟な自分に優しく接して頂き、困った時は丁寧に指導して下さったコメディカル、看護師、上級医の先生方、そして、職場だけでなくプライベートな悩み、相談にまで乗ってくれた、安藤先生、小林先生、また同期の研修医の先生に心から御礼申し上げます。

お世話になった分またいつかこの五戸の町のために社会貢献できたらいいなと思っております。